



企画展

超低空を飛ぶひと 川崎長太郎

私小説一筋60年の軌跡

2025

10.23(木) » 12.14(日)

小田原文学館

〒250-0013 神奈川県小田原市南町 2-3-4

開館時間 10月31日まで 10:00～17:00
11月 1日から 10:00～16:30
(いずれも入館は閉館の30分前まで)
休館日 月曜日(休日の場合は翌平日)
入館料 大人250円、小中学生100円
(団体/障害者手帳をお持ちの方割引有)

企画展

超低空を飛ぶひと 川崎長太郎

私小説一筋60年の軌跡



文壇にデビューした
頃の川崎長太郎

会期中のイベント

[ギャラリートーク]

本展を中心に、文学館の見どころを解説
つきで案内します。参加者は入館が無料
になります。（神奈川県西部地域ミュージアム
ズ連絡会主催 ミュージアム・リレーとして開催）

日時 11月21日（金）13:30～15:30

場所 小田原文学館

費用 無料

定員 20名（要事前申込・先着順）

[秋の西海子 文学散歩]

西海子小路周辺に点在する北原白秋、谷
崎潤一郎、三好達治、坂口安吾、北條秀
司らの居住地跡などを散策します。

日時 12月6日（土）10:00～12:00（少雨決行）

集合 小田原文学館 玄関前

費用 無料

定員 20名（要事前申込・先着順）

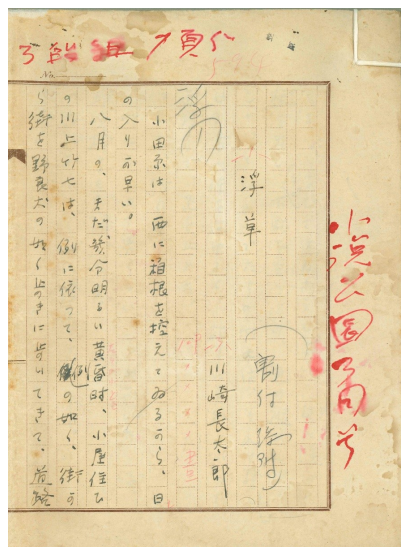
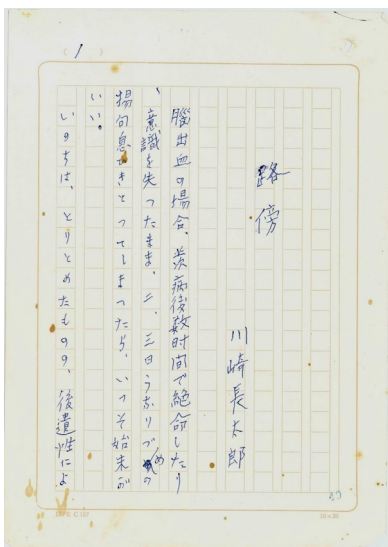
***いずれのイベントも申し込み・問合せは
10月15日（水）から、小田原市立中央図書館
（☎0465-49-7800）へ**

小田原出身の私小説家・川崎長太郎（1901～1985）。大正14年（1925）、師である徳田秋声の紹介により、雑誌『新小説』に初の私小説となる「無題」を発表し、文壇デビューを飾りました。24歳の時のことです。

以後、ひたすら私小説に打ち込んだ川崎長太郎は、生涯におよそ300篇もの作品を残し、とりわけ昭和29年（1954）刊行の作品集『抹香町』『伊豆の街道』は非常な人気を博しました。

昭和42年、不運にも病を得、右利き腕の自由を失いますが、それでも懸命に左手を操って執筆を続け、昭和55年には、自ら「無題」以降の51作を選び、生涯の集大成ともいえる『川崎長太郎自選全集』全5巻を刊行します。

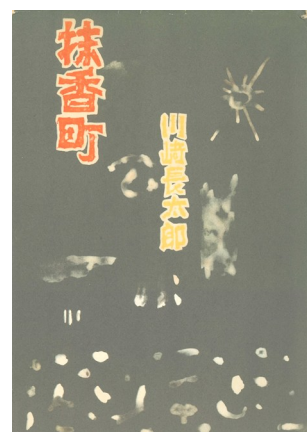
—「超低空を飛ぶひと」。渋谷龍彦が評したように、地を這うように高度な飛行術で、ありのままの人間の生き様をうつし続けた川崎長太郎。本展では、自筆全集を軸として、「無題」発表から同集の刊行、さらに昭和60年に83歳で亡くなるまで、その私小説一筋60年の軌跡をたどります。



◀川崎長太郎は昭和42年に脳出血で倒れ、利き腕である右手の自由が奪われるが、ペンを左手に持ち替えて執筆を続けた。

昭和31年発表「浮草」の原稿（写真右）は柔らかな字で書かれているが、昭和47年発表「路傍」の原稿（写真左）はやや角ばった字で書かれており、慣れない左手で懸命に書いている様子が見てとれる。

小田原市立中央図書館蔵



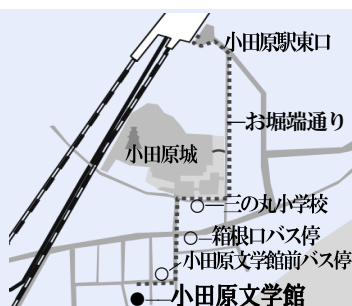
ブームとなった『抹香町』（昭和29年 大日本雄弁会講談社）

国登録有形文化財・歴史的風致維持形成建造物
旧田中光顕別邸

小田原文学館

〒250-0013 神奈川県小田原市南町 2-3-4

問合せ 小田原市立中央図書館 TEL0465-49-7800



アクセス

- ・小田原駅東口から徒歩20分
- ・小田原駅東口から箱根方面行バス
H/T/J/Z/U線「箱根口」下車徒歩5分
- ・小田原宿観光回遊バス「うめまる号」
「7.小田原文学館前」下車徒歩1分
（土日祝日のみ運行）
- ・車で国道1号線「箱根口交差点」から
路地に入り220m右折後直進100m
（駐車場7台・無料）